

第 19 章 神明後遺跡の調査

I 遺跡の立地と環境

神明後遺跡は、東武東上線ふじみ野駅の東約 300m、さかい川の谷頭部から約 1,500m 下った右岸に位置し、標高 12～16m、現谷底との比高差は 1.5m を測る。さかい川は本遺跡付近から崖を形成し始め、本遺跡をのせる南側台地は急斜面、対岸の北側は緩やかな斜面を形成している。

周辺の遺跡は、上流に中沢前遺跡、下流に浄禅寺跡遺跡、苗間東久保遺跡が隣接し、さかい川の対岸には富士見市の外記塚遺跡がある。

遺跡周辺は古くからの集落があり、現在でも大きな屋敷地が多く大きな開発もなかったが、ふじみ野駅の開設に伴い徐々に再開発が進みつつある。

本遺跡の最初の調査は 1987 年に大井町史編纂事業の一環として行われた。その後 1993 年に新駅へ延びる道路をはじめ、2015 年 11 月現在、53 ヶ所で試掘調査および発掘調査が行われている。

これまでの調査で縄文時代中期後半～後期前半の住居跡、奈良時代から平安時代の住居跡、中世の建物跡などの遺構を検出した。

II 神明後遺跡第 46 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2012 年 3 月 7 日付で「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡中央部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2012 年 4 月 9 日から 10 日まで、幅約 1.5 m のトレンチ 4 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、土坑を確認した。

他に遺構は確認できなかったため慎重工事の措置とした。地表面から遺構確認面までの深さは約 100 cm である。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

【土坑】土坑は平面楕円形、確認面 97 × 74 cm、底径 88 × 67 cm、深さ 40 cm を測る。出土遺物から時期は、縄文時代である。

【出土遺物】(第 80 図 1・2)

1 は地文に無節 L r 縄文、2 は地文 R L 縄文を施す。縄文時代中期。



第 79 図 神明後遺跡の地形と調査区 (1/4,000)

Ⅲ 神明後遺跡第 47 地点

(1) 調査の概要

調査は個人住宅建設に伴うもので、原因者より 2012 年 3 月 7 日付けで「埋蔵文化財事前協議書」がふじみ野市教育委員会に提出された。申請地は遺跡西端部に位置するため、申請者と協議の結果、遺構の存在を確認するために試掘調査を実施した。

試掘調査は 2012 年 4 月 24 日、幅約 1.5 m のトレンチ 3 本を設定し、重機で表土除去後、人力による表面精査を行った。試掘調査の結果、一部で礫や遺構覆土を検出したため、発掘調査の措置とした。地表面から遺構確認面までの深さは約 50 cm である。

本調査は 4 月 25 日から 5 月 10 日に行い、縄文時代の集石 3 基とピット 4 基を調査した。写真撮影・全測図作成等記録保存を行ったうえ埋め戻し、調査を終了した。旧石器時代の確認調査は行っていない。

(2) 遺構と遺物

【集石】調査区東端部で検出した。地形は集石検出ヶ所から北西のさかい川に向かって傾斜がはじまる。集石は南北 4.3 × 東西 4.2 m の範囲に広がっており、斜面上の集中ヶ所から斜面の下方へ向かって散在している。調査時には集中ヶ所を 3 ヲ所に分け礫を取り上げた。

集石 1 は A-2Grid から D-2Grid にかけて南北 1.4 × 東西 2.9 m の範囲に広がり、特に C-2Grid を中心とした南北 0.8 × 東西 1.2 m の範囲に集中する。

集石 2 は A-3Grid から C-5Grid にかけて南北 2.2 × 東西 2.7 m の範囲に広がり、特に C- 3 Grid を中心とした南北 1.0 × 東西 1.0 m の範囲に集中する。

集石 3 は D-3Grid から E-5Grid にかけて南北 2.7 × 東西 1.5 m の範囲に広がる。

集石は土器を伴っており、時期は加曽利 E Ⅲ期。ま

第 62 表 神明後遺跡調査一覧表

地点	所在地	調査期間 ()は試掘調査	面積(m ²)	調査原因	確認された遺構と遺物	所収報告書
28	苗間神明後306-1	(2006.5.8~31) 2006.6.29~10.5	2,171	宅地造成	縄文中期住居跡 11 (15~25 号)、集石 23、土坑 5、落とし穴 1、炉穴 3、ピット、溝 4、古代・中世堀跡 1	市3
29	苗間神明後303-21・24	(2006.5.8~11)2006.5.12~19	136	個人住宅	ピット 1、古代・中世堀跡 1	市3
30	苗間神明後303-1	(2006.5.8~19)2006.12.14~19	101	個人住宅	ピット 12	市3
31	苗間神明後284	(2007.8.3~7)	499	個人住宅	土坑 2	市4
32	苗間神明後247-2	(2008.3.13)	136	個人住宅	近・現代攪乱	市4
33a	苗間240-2	(2008.4.25~5.16)	298	個人住宅	落とし穴 1、中世以降溝 6、井戸 2、土坑 38、ピット 16	市6
33b	苗間240-2	(2008.4.25~5.16)	357	分譲住宅		市6
34	苗間字神明後283-1、284-1の一部	(2008.4.30~5.15) 2008.5.16~28	1,693	個人住宅	縄文中期住居跡 1 (26 号)、落とし穴 1、集石 3、ピット	市5
35	苗間字神明後293-6・20	(2008.8.1)	247	個人住宅	遺構・遺物無し	市6
36	苗間字神明後293-3	(2008.9.2)	165	個人住宅	ピット 1	市6
37	苗間258-1の一部	(2009.4.13)2009.4.15~30	120	個人住宅	縄文後期住居跡 1	市8
38	苗間字神明後293-1、292-13	(2009.7.6~7)2009.7.8~16	265	個人住宅	中近世溝 1	市8
39	苗間字神明後264-1	(2009.8.5~12)2009.8.24~9.1	378	共同住宅	中〜近世溝 2、ピット 28、落とし穴 1	市7
40	苗間309-1	(2009.11.9~16) 2009.12.18~2010.1.15	156	個人住宅	縄文集石土坑 1、中世地下式坑 2、井戸 1、竪穴状遺構 1、土坑 9	市8
41	苗間字神明後298-1、299-1の一部	(2010.5.25~6.7) 2010.6.15~7.21	486	共同住宅	縄文時代集石土坑 1、中世の掘立柱建物跡、方形竪穴状遺構 16、溝 7、木炭窯 2、ピット 214、本調査 (140m ²)	市9
42	苗間神明前380-3	(2010.6.1~2)	312	宅地造成	遺構・遺物無し (隣接地)	市10
43	苗間292-14	(2010.10.20~22)2010.10.22	107	個人住宅	中世〜近世期ピット 7、本調査	市10
44	苗間神明後367-1、368-1の一部	(2011.7.8)2011.7.11~13	1,536	個人住宅	落とし穴 1、土器・陶器片	市14
45	苗間神明後235-9	(2011.12.5)	200	個人住宅	遺構遺物なし	市14
46	苗間神明後235-6	(2012.4.9~10)	233	個人住宅	縄文土坑 1、土器片	市15
47	苗間神明後227-2	(2012.4.24)2012.4.25~5.10	340	個人住宅	縄文時代集石 3、ピット 4、縄文土器片	市15
48	苗間神明後315-1の一部	(2012.5.7)2012.5.8~14	171	個人住宅	井戸 2、溝 3、土坑 8、ピット、板碑、カワラケ、近世陶磁器、石臼片	市15
49	苗間神明後367-1、368-6	(2013.1.30)	28	個人住宅	遺構遺物なし	市15
50	苗間375	(2013.12.11)	532	薬師堂建設	遺構遺物なし	未報告
51	神明後295-1、297-1・2の一部、 298-1、299-1	(2014.11.5~13)2014.11.20~25	487	集合住宅	縄文時代土坑 2、中近世溝 2、縄文土器	未報告
52	苗間字神明後231-1	(2015.1.28)	379	個人住宅	遺構遺物なし	未報告
53	苗間字神明後298-1	(2015.1.28)	495	個人住宅	遺構遺物なし	未報告

た、集石に伴う土坑（掘り込み）は確認できなかった。

集石別の礫集計は第 64 表のとおりである。

【焼土跡】B-3Grid、集石より上位の土層中に焼土跡を検出した。範囲は東西 56 × 南北 38 cm、厚さ 10 cm を測る。出土遺物はなく時期不明。

【ピット】4 基検出した。縄文土器を伴う。詳細は第 63 表参照。

【出土遺物】（第 80 図 1・2）

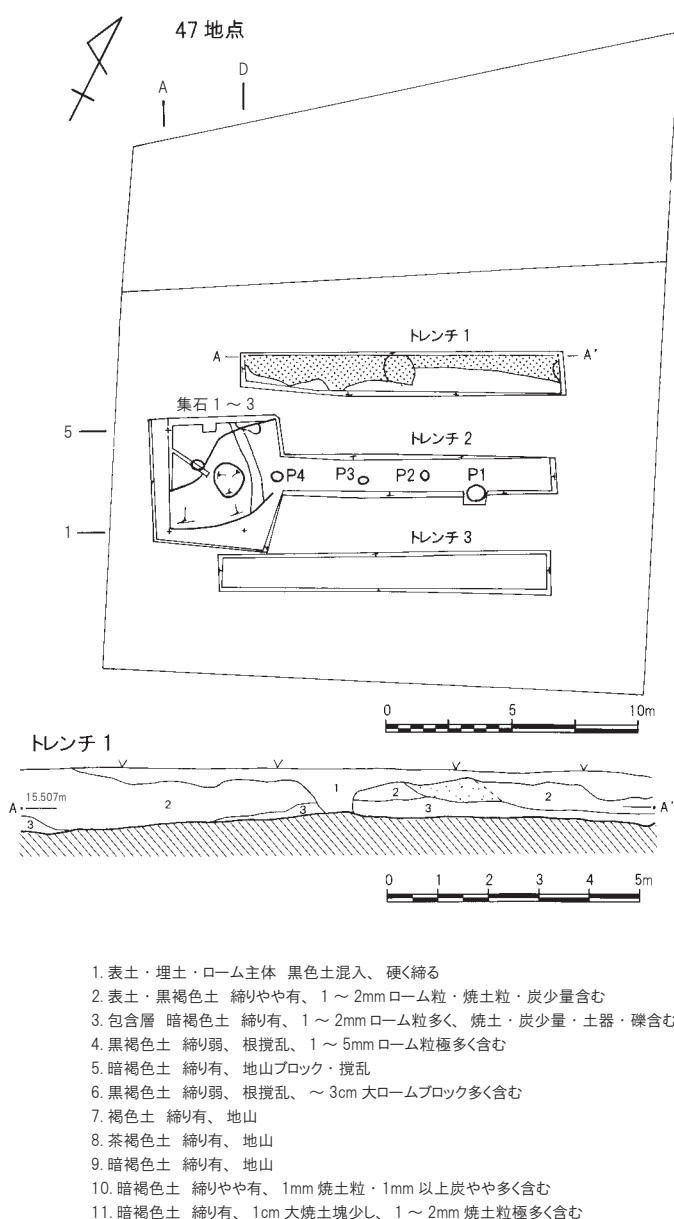
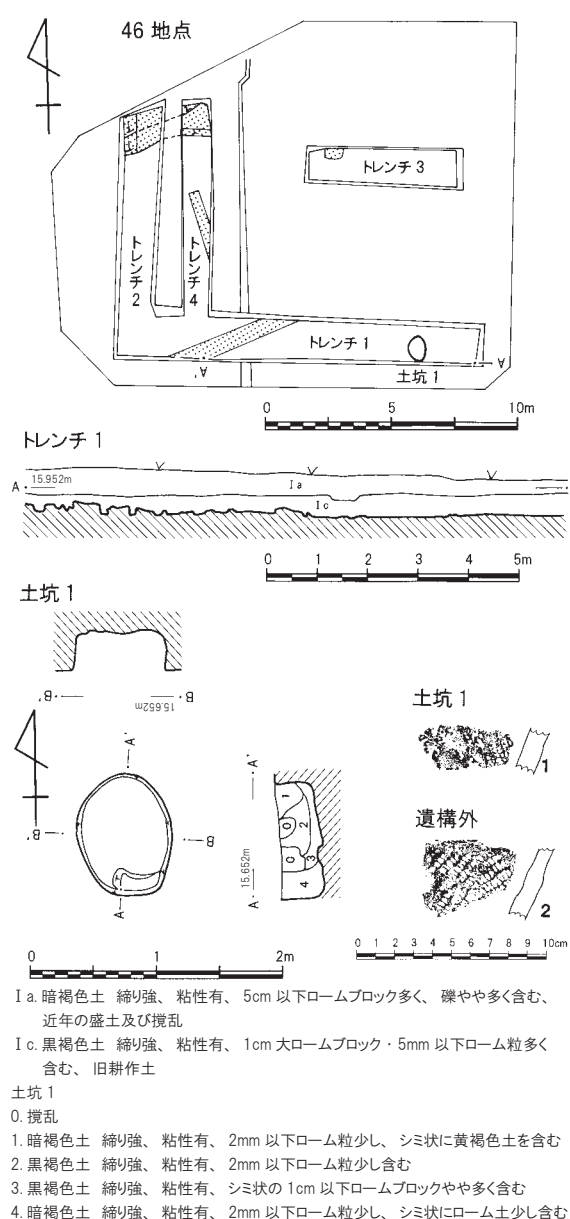
1 は地文に無節 L r 縄文、2 は地文 R L 縄文を施す。縄文時代中期。

第 63 表 神明後遺跡第 47 地点ピット一覧表（単位 cm）

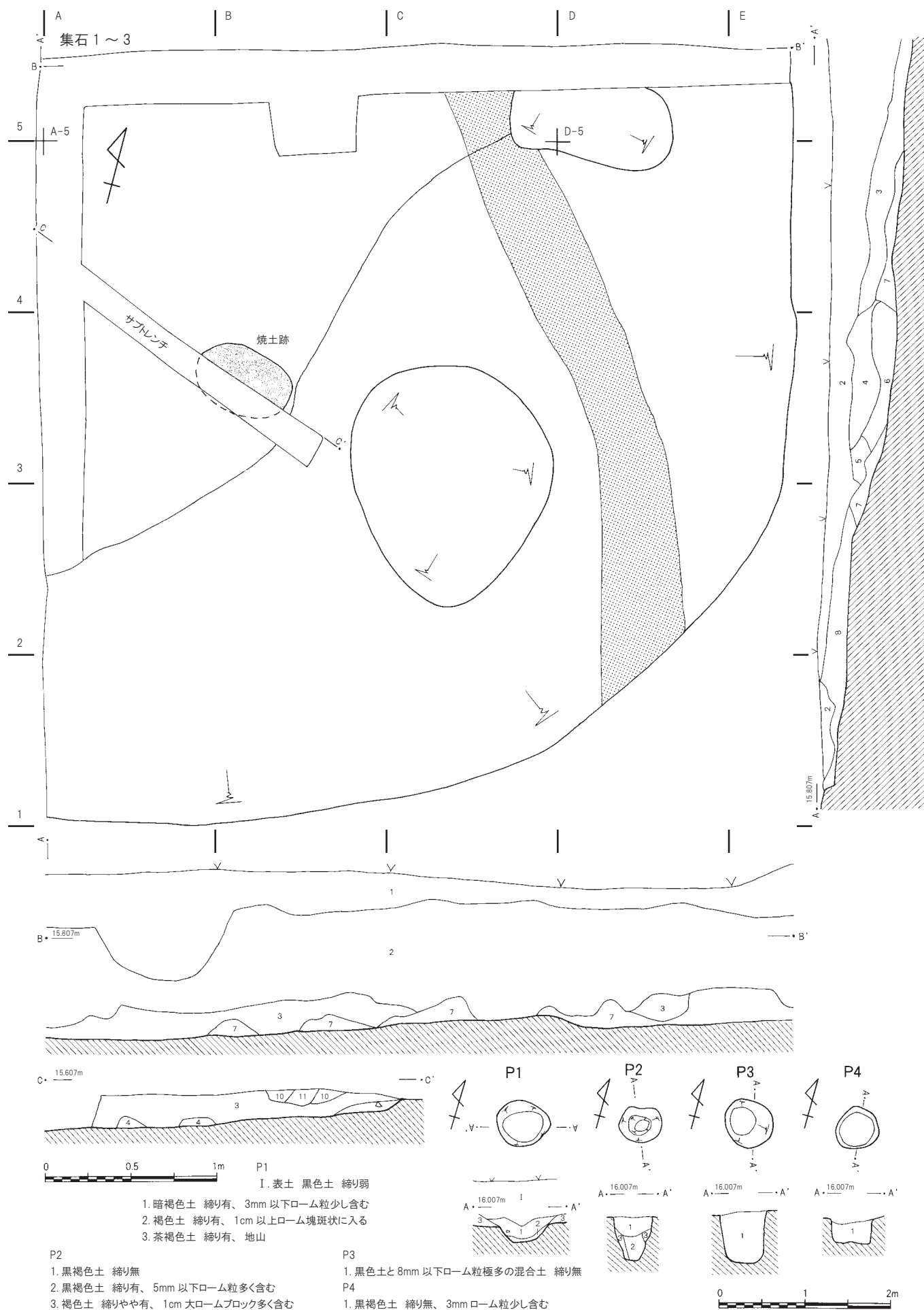
No.	平面形態	確認面径	底径	深さ	備考
P1	円形	60×51	47×35	21.7	
P2	円形	48×41	26×22	55.1	
P3	円形	56×55	31×30	67.9	
P4	円形	50×48	42×39	29.4	

第 64 表 神明後遺跡第 47 地点集石・出土礫観察表（単位 cm・個数・g(%)）

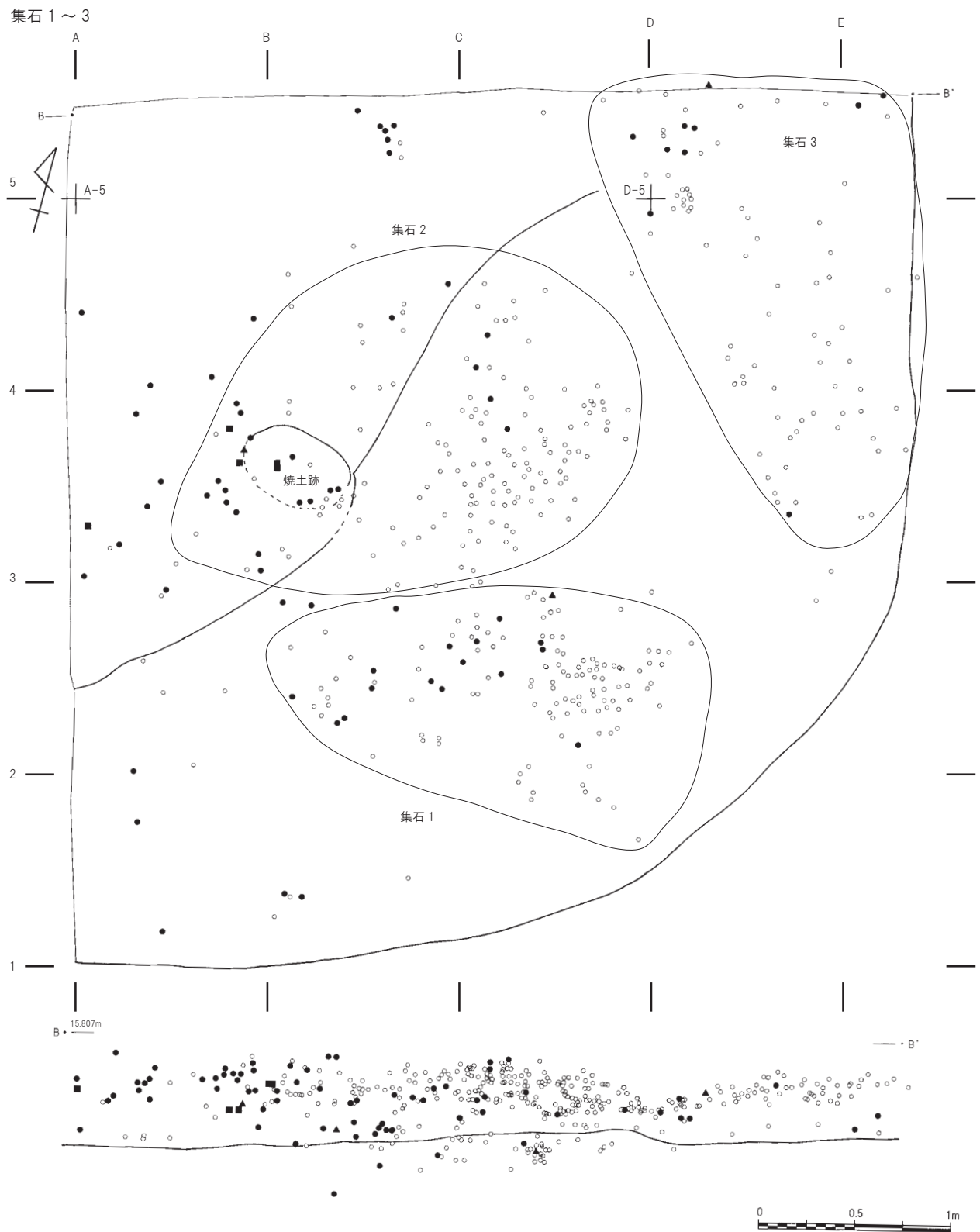
	総点数	総重量	平均重量	石損数	定型数	焼成数	未焼成数	タール数	タール未
集石1	131	9,048.36	69.07	118(90.1%)	13(9.9%)	126(96.19%)	5(3.81%)	130(99.24%)	1(0.76%)
集石2	133	11,538.67	86.76	133(93.01%)	10(6.99%)	117(81.82%)	26(18.18%)	118(82.52%)	25(17.48%)
集石3	76	4,077.88	53.66	72(94.74%)	4(5.26%)	74(97.37%)	2(2.63%)	75(98.69%)	1(1.31%)



第 80 図 神明後遺跡第 46・47 地点遺構配置図 (1/300)、土層 (1/150)、第 46 地点土坑 (1/60)、出土遺物 (1/4)

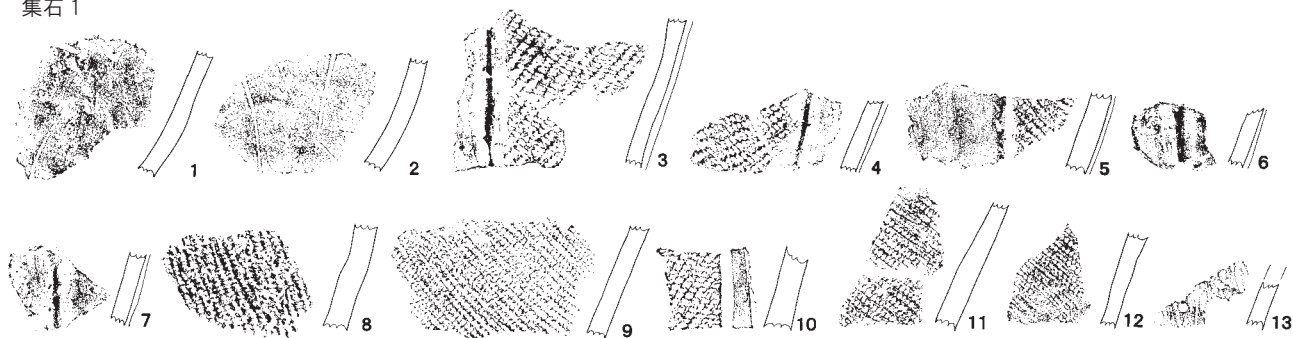


第81図 神明後遺跡第47地点集石1~3(1/30)、ピット(1/60)

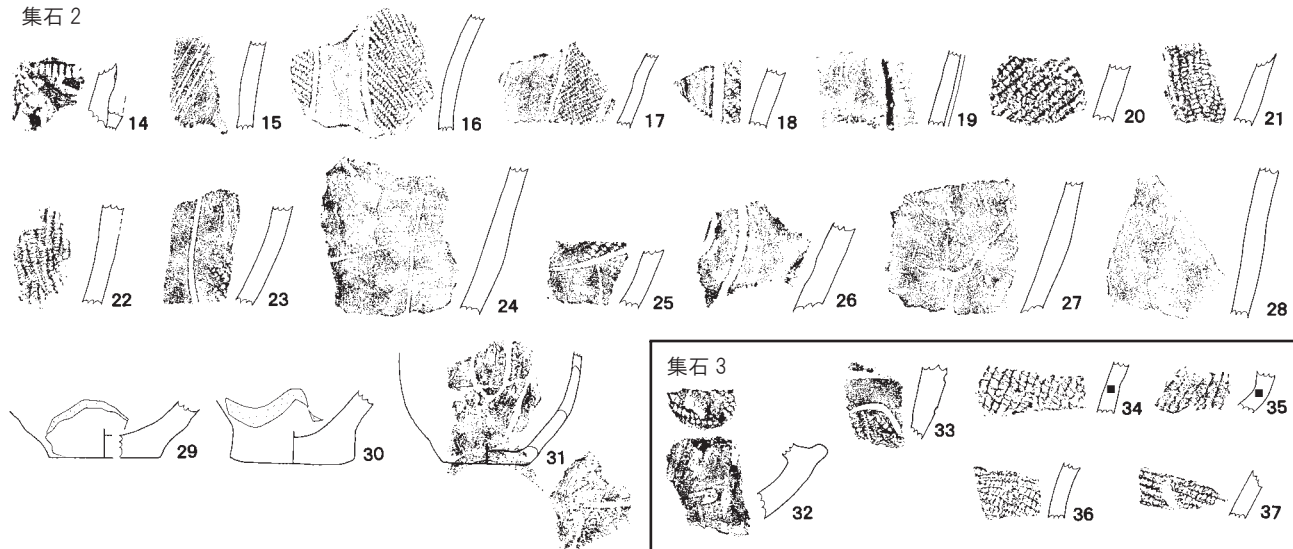


第 82 図 神明後遺跡第 48 地点集石 1 ~ 3・遺物出土状況 (1/30)

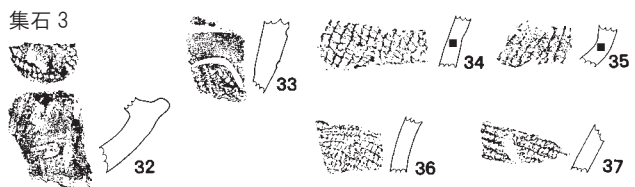
集石 1



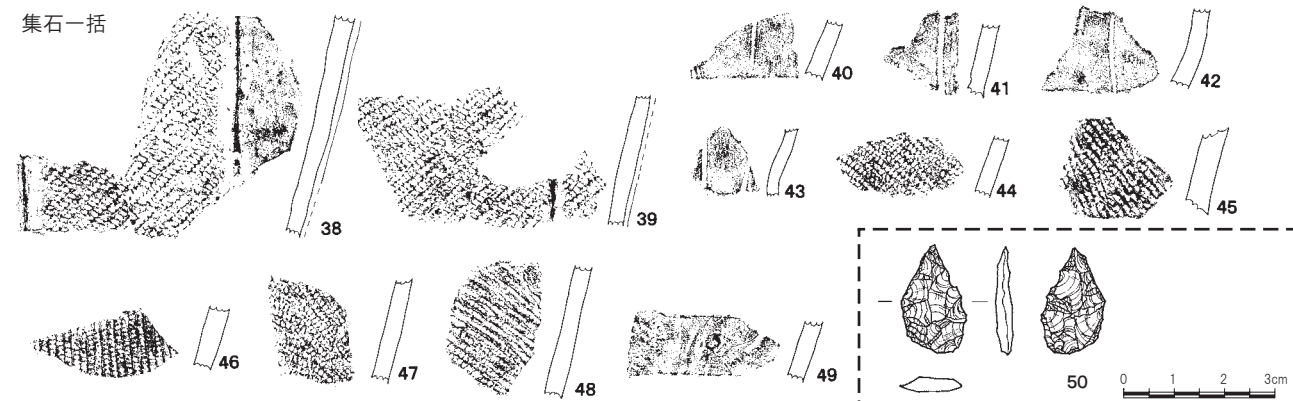
集石 2



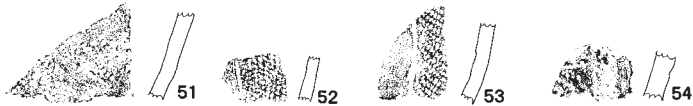
集石 3



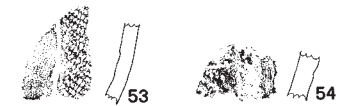
集石一括



P1



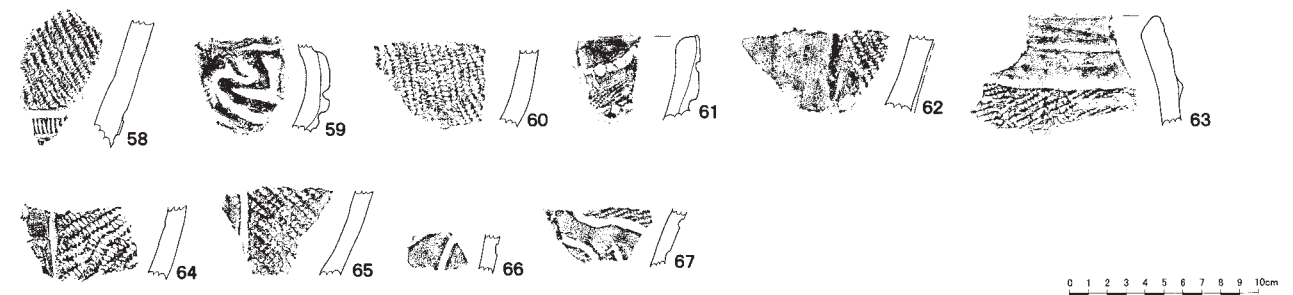
P2



P4



遺構外



第 83 図 神明後遺跡第 47 地点出土遺物 (1/4・2/3)

【出土遺物】(第 83 図)

1 から 13 は集石 1 出土土器で、加曽利 E Ⅲ式から E IV式とみられる。

1・2 は縄文土器の深鉢胴部で細沈線を施す。3～5 は隆帯間を磨消し、地文 R L 縄文を施す。6・7 は隆帯に磨消し。8 は R L、9・11・12 は L R 縄文を施す。

10 は地文 R L 縄文に沈線間を磨消す。13 は無文。

14 から 31 は集石 2 出土である。14 は隆帯脇に角押文、15 は条線文を施す。16 から 18 は沈線間を幅広く磨消し、16 は地文 L R 縄文、17 は R L 縄文、18 は無節 L r 縄文である。19 は微隆起帯と磨消しを施す。20 は L R 縄文、21 は複節 R L 縄文、22 は R L 縄文である。23・25 は沈線文と R L 縄文と磨消し、24 は沈線文、25 は沈線間を幅広く磨消す。27、28 は無文。29、30 は無文の底部である。31 は小型の深鉢形土器で沈線文と磨消しを施す。集石 1・2 の 1・2・27・30・40・42・49 の土器は胎土に微細な白色粒子を含む特徴などから同一個体の可能性がある。14 は勝坂式、14 から 31 は加曽利 E Ⅲ式から E IV式とみられる。

32 から 37 は集石 3 出土土器である。32 は口縁部の橋状把手で上部に L R 縄文を施文する。33 は沈線間を幅広く磨消し、R L 縄文を施文する。34・35 は無節 L r 縄文で胎土に繊維を含む。36・37 は地文単節縄文を施す。34・35 は前期の黒浜式か、他は加曽利 E Ⅲから E IV式。

38 から 50 は集石 1 から集石 3 出土の一括遺物である。

38・39 は地文 L R 縄文に微隆起帯間を幅広く磨消す。40 から 43 は磨消しに沈線文を施す。44 は地文 R L、45 から 47 は地文 L R 縄文、48 は無節 L r 縄文である。49 は磨消しに沈線を施す。50 はほぼ完形の黒曜石製の石鏃で重さ 0.85g である。

51 から 54 はピット 1・2・4 出土土器である。

51 は地文縄文、52・53 は地文 R L 縄文と沈線に磨消し、54 は地文縄文に沈線を施し、隆帯を貼り付けていた可能性もある。全て加曽利 E 式である。

55 から 67 は遺構外出土土器である。55 から 57 は前期黒浜式土器で、地文無節 L r 縄文で、55 は波状口縁である。

58 は地文前々段多条 R L 縄文に刻目隆帯の脇に沈線を施す。59 は口縁部の隆帯文区画で中は地文撚糸文とみられる。60 は地文 R L 縄文、61 は口縁部で地

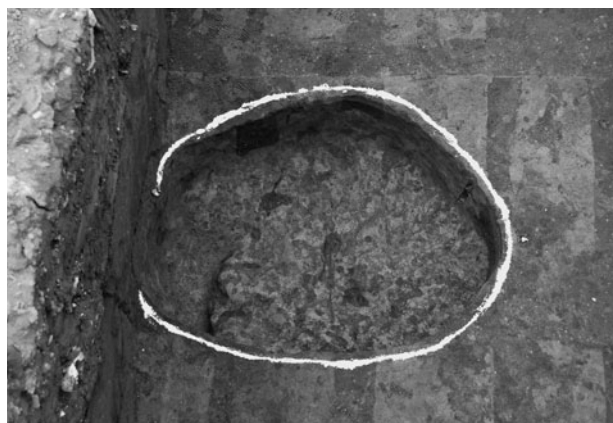
文に細かい L R 縄文と沈線の中に円形刺突を施す。

62 は地文縄文に微隆起帯間を幅広く磨消す。63 は地文 L R 縄文に微隆起帯で区画し、口縁部を幅広く磨消す。64・67 は地文 L R 縄文に沈線間を幅広く磨消す。

65 は地文無節 R L 縄文、66 は沈線間を幅広く磨り消す。58 は勝坂式、59 から 67 は加曽利 E I から E IV式に含まれる。



神明後遺跡第 46 地点全景



神明後遺跡第 46 地点土坑 1



神明後遺跡第 47 地点全景



神明後遺跡第 47 地点トレンチ 2



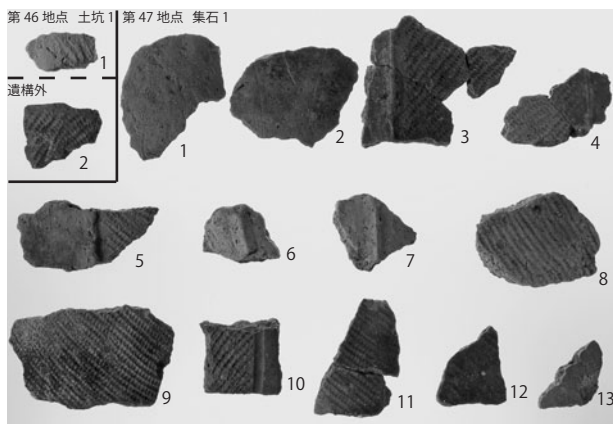
神明後遺跡第 47 地点集石 1～3



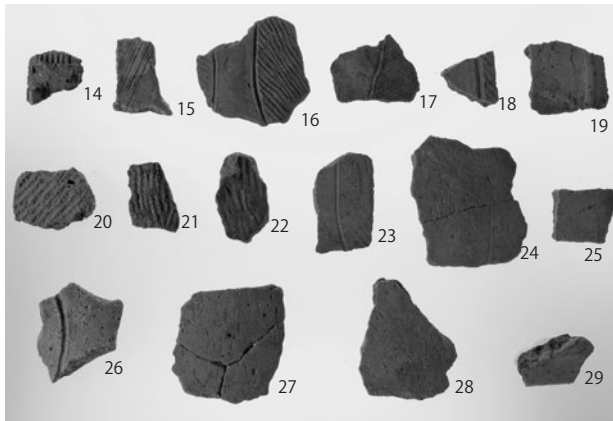
神明後遺跡第 47 地点集石 2



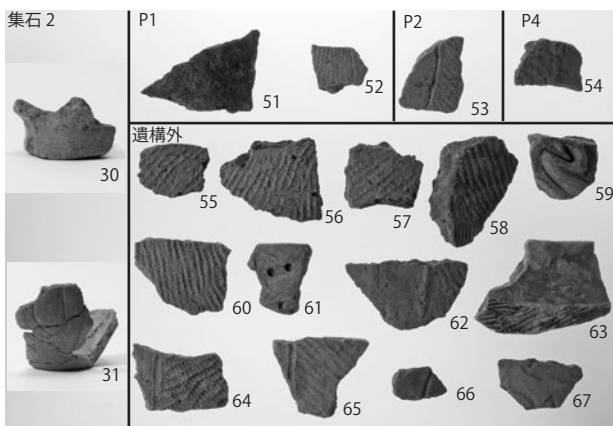
神明後遺跡第 47 地点調査風景



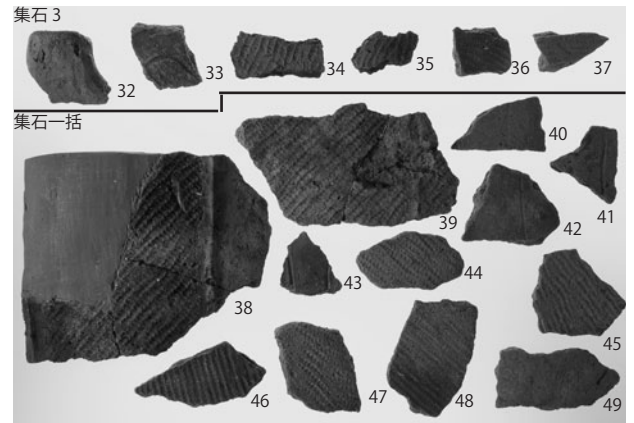
神明後遺跡第 46・47 地点出土遺物



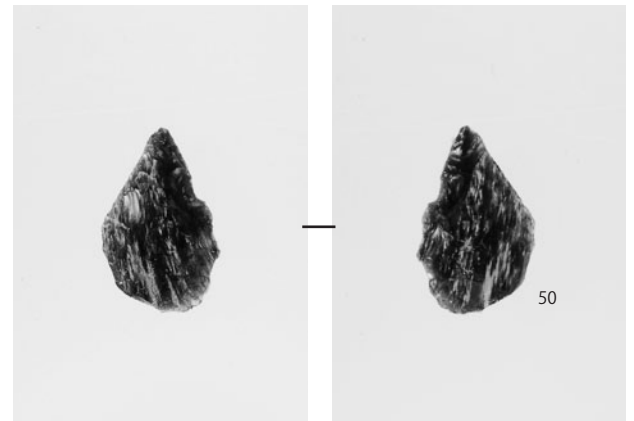
神明後遺跡第 47 地点集石 2 出土遺物



神明後遺跡第 47 地点出土遺物



神明後遺跡第 47 地点集石 3・集石一括出土遺物



神明後遺跡第 47 地点集石一括出土遺物 No.50



神明後遺跡第 48 地点トレンチ



神明後遺跡第 48 地点トレンチ 2 溝・土坑土層



神明後遺跡第 48 地点井戸 1・2



神明後遺跡第 48 地点井戸 2 遺物出土状況